

H31 年度入学生総合美容コース 実務経験教員一覧

	授業科目		実務経験 教員名	実務経験 有無	第1学年	第2学年	単位数 合計	法規定 時数
必修 課 目	関係法規・制度				0	1	1	1
	衛生管理		高田 誠	有	1	2	3	3
	保健		小野 直人	有	2	1	3	3
	香粧品化学		佐伯 哲也	有	1	1	2	2
	文化論				0	1	2	2
	ヘアスタイル(文化論)			無	1	0		
	美容技術理論		山本 淑香	有	4	1	5	5
	運営管理			無	1	0	1	1
	美容 実 習	カット	山本 淑香	有	2	5	7	30
		ワインディング	山本 淑香	有	4	5	9	
		オールウェーブ	山本 淑香	有	2	5	7	
		サロン実習Ⅰ	瓦崎 成義	有	2	0	2	
		アップⅠ	アン 優美	有	1	0	1	
		エステⅠ	嶋 和美	有	1	0	1	
ネイルⅠ		生島 千賀	有	1	0	1		
メイクⅠ		海堀 千沙	有	2	0	2		
和装Ⅰ		山本 淑香	有	1	0	1		
美容実習計				16	15	31		
必修小計				26	22	48	47	
選択 課 目	キャリアデザイン		美容師複数名	有	1	1	2	
	美容英会話		吉村 継子	有	1	0	1	
	パーソナルカラー		佐伯 哲也	有	1	0	1	
	美容総合演習				0	1	1	
	美容 総 合 技 術	サロン実習Ⅱ			0	1	1	
		アップⅡ			0	1	1	
		アイ	内町 ルミ	有	1	1	2	
		エステⅡ			0	1	1	
		ネイルⅡ	生島 千賀	有	1	2	3	
		メイクⅡ	佐伯 哲也	有	1	1	2	
		和装Ⅱ			0	2	2	
		キャリアアップ	山本 淑香	有	2	1	3	
美容総合技術計				5	10	15		
選択小計				8	12	20	20	
合 計				34	34	68	67	

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術（アイ）	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計 2）
授業方法	講義・実習	授業時期	後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	まつ毛エクステンションを安全・安心に施術するための基礎的な理論・技術を身につける
成績評価	出席・課題完成度 80%以上

授業計画・内容	
第 1 回	まつ毛エクステンション概論／用具説明・使用上の注意
第 2 回	まつ毛エクステンションの用具
第 3 回	衛生管理／ワゴンセッティング・手指消毒
第 4 回	衛生管理／固定テープの貼り方・まつ毛クレンジング
第 5 回	ツイーザーの持ち方・まつ毛のかき分け方・J カール装着・グルーの取り扱い
第 6 回	保健／J カール装着
第 7 回	J カール装着・リムービング
第 8 回	保健／C カール装着
第 9 回	保健／C カール装着・リムービング
第 10 回	J カール装着・リムービング
第 11 回	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第 12 回	カウンセリング理論／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング
第 13 回	カウンセリング理論／J カール装着・リムービング
第 14 回	手指消毒・エクステンション装着・リムービング
第 15 回	理論復習／固定テープ（両目貼り）・まつ毛クレンジング

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	キャリアデザイン	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計 2）
授業方法	講義・演習	授業時期	前期・後期	実務経験	有する現役美容師等
経験活用	美容業界で活躍するために必要な技術を高めるための目標や、ジェネリックスキルを身に付ける				
教 科 書					

到達目標	将来、美容業界でどのように、どのような場で活躍するかを学び、具体的な計画を立てる。
成績評価	出席・課題完成度 80%以上

授業計画・内容	
第 1 回	Imagine the Best of My Self I 先輩美容師のプレゼン
第 2 回	Imagine the Best of My Self I 先輩美容師のプレゼン感想
第 3 回	Imagine the Best of My Self I 先輩美容師の職場・人生の話
第 4 回	Imagine the Best of My Self I 理想の美容師像のイメージ
第 5 回	Imagine the Best of My Self I 将来の夢を発表
第 6 回	美容業界の就活講演 I
第 7 回	美容業界の就職フェア I
第 8 回	ジェネリックスキル測定
第 9 回	ジェネリックスキル（自分の強み・課題）確認
第 10 回	インターンシップ準備
第 11 回	インターンシップ I
第 12 回	インターンシップ I
第 13 回	インターンシップ I
第 14 回	インターンシップ I
第 15 回	インターンシップ I
第 16 回	インターンシップ I
第 17 回	インターンシップ I
第 18 回	インターンシップ I
第 19 回	学習課題発見ワーク
第 20 回	学習課題解決計画
第 21 回	10 年後の自分ワーク
第 22 回	レポート「好きな仕事で、夢をかなえる」
第 23 回	サロン見学・レポート
第 24 回	Imagine the Best of My Self II 先輩美容師のプレゼン
第 25 回	Imagine the Best of My Self II 先輩美容師のプレゼン感想
第 26 回	Imagine the Best of My Self II 先輩美容師の職場・人生の話
第 27 回	Imagine the Best of My Self II 理想の美容師像のイメージ
第 28 回	Imagine the Best of My Self II 将来の夢を発表
第 29 回	美容業界の就活講演 II
第 30 回	美容業界の就職フェア II

科 目 名	パーソナルカラー	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務におけるファッションと、肌や髪色を基礎とするパーソナルカラーの知識を身に付ける				
教 科 書	パーソナルカラリスト検定 3 級公式テキスト				

到達目標	色の持つ文化的・感覚的な力を理解し、美容業の実践に生かせる知識を習得する
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	色彩と文化（導入）
第 2 回	日本の色の歴史（特徴的な伝統色）
第 3 回	身分階級と色（歴史の中での色の使われ方）
第 4 回	江戸時代の色彩文化（色彩文化の推進力）
第 5 回	色と生活（周りを取り巻くさまざまな色）
第 6 回	色の種類（色の系統とイメージ）
第 7 回	色の種類（白・黒・グレー系統の意味合い）
第 8 回	色のしくみ（視覚の 3 要素）
第 9 回	色のしくみ（物体色と光源色）
第 10 回	色のしくみ（光の波長と色）
第 11 回	光源の特性（スペクトルと色味の影響）
第 12 回	眼の構造と働き（視覚情報の伝達経路）
第 13 回	眼の構造と働き（構造部位の機能）
第 14 回	有彩色と無彩色（色味とイメージ）
第 15 回	色の三属性（色の持つ 3 つの性質）
第 16 回	CUS 表色系（カラーアンダートーンシステムについて）
第 17 回	CUS 色相（視覚的な色の調和）
第 18 回	CUS 色調（明度と彩度の属性）
第 19 回	色相配色（色相環上における色同士の位置関係）
第 20 回	色相配色（同系色相・類系色相・反対色相）
第 21 回	色調配色（色の調子）
第 22 回	色調配色（同系色調・類系色調・反対色調）
第 23 回	色の三属性と対比現象（明度対比・彩度対比・色相對比）
第 24 回	色の感情効果（色のもたらす心理効果）
第 25 回	CUS 配色効果（アンダートーン配色）
第 26 回	アンダートーン配色テクニック（ファッションとの配色調和）
第 27 回	ブライダルと色彩（ウェディングと配色調和）
第 28 回	パーソナルカラー（肌色のしくみ）
第 29 回	パーソナルカラー（皮膚の構造・髪色の科学）
第 30 回	パーソナルカラーの特徴（人の特徴によるパーソナルカラー診断）

科 目 名	運営管理	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	有しない教員
経験活用					
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	接客の意義と技術、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を身に付ける。
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	経営とは・経営者とは
第 2 回	業界の概要
第 3 回	競争の変化
第 4 回	サービスとしての理容・美容
第 5 回	理容業・美容業の顧客
第 6 回	資金管理の重要性
第 7 回	収支と損益
第 8 回	会計の考え方
第 9 回	コストを管理する
第 10 回	税金について
第 11 回	給与
第 12 回	待遇・福利厚生
第 13 回	労働者の権利
第 14 回	健康管理の基礎
第 15 回	理容・美容の仕事と健康
第 16 回	理容業・美容業に特徴的な健康課題
第 17 回	理容・美容の作業環境に関する健康問題
第 18 回	社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任
第 19 回	社会保険
第 20 回	キャリアプランの重要性
第 21 回	サービス・デザイン
第 22 回	理容業・美容業のマーケティング
第 23 回	マーケティング・ミックス
第 24 回	マーケティング・ミックスの要因
第 25 回	サービスのシステム化
第 26 回	接客についての理解
第 27 回	接客の実践
第 28 回	接客におけるトラブルと対応
第 29 回	接客で発生が予想される問題
第 30 回	問題を深刻化させないための対策・対処

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	衛生管理	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 3）
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生措置の意義・原理を理解させ、適正な実施方法を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症、消毒方法などを理解できる
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	公衆衛生の意義と課題
第 2 回	公衆衛生発展の歴史
第 3 回	欧米の公衆衛生の歩み
第 4 回	我が国の公衆衛生の歩み
第 5 回	消毒法の歴史
第 6 回	理容師・美容師と公衆衛生
第 7 回	歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生
第 8 回	公衆衛生理容師・美容師
第 9 回	保健所と理容業・美容業
第 10 回	保健母子保健
第 11 回	成人・高齢者保健
第 12 回	精神保健
第 13 回	環境衛生の内容
第 14 回	環境衛生の目的と意義
第 15 回	環境衛生活動
第 16 回	空気環境
第 17 回	空気と健康
第 18 回	温度、湿度、気流（風）と健康
第 19 回	衣服・住居の衛生
第 20 回	衣服の衛生
第 21 回	住居の衛生
第 22 回	上・下水道と廃棄物
第 23 回	上水道
第 24 回	下水道
第 25 回	廃棄物
第 26 回	衛生害虫とネズミ
第 27 回	衛生害虫
第 28 回	ネズミ
第 29 回	環境保全
第 30 回	水質汚濁

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	技術理論	課 目	必修課目	単 位 数	4（卒業までに計 5）
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務における衛生・能率的に実施する態度・習慣を養い、科学的合理的な方法を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	シャンプー、カット、パーマ、カラー、日本髪、着付けなどの基礎的技術理論を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1～2 回	美容技術における作業姿勢
第 3～4 回	美容技術に必要な人体各部の名称
第 5～6 回	美容技術における用具
第 7～8 回	コーム
第 9～10 回	ブラシ
第 11～12 回	シザーズ
第 13～14 回	レザー
第 15～16 回	ピン類、ヘアクリップ
第 17～18 回	ロッド
第 19～20 回	ローラー
第 21～22 回	ヘアアイロン
第 23～24 回	ヘアドライヤー
第 25～26 回	ヘアスチーマー
第 27～28 回	遠赤外線機
第 29～30 回	シャンプーイング総論
第 31～32 回	サイドシャンプー
第 33～34 回	バックシャンプー
第 35～36 回	リンス・コンディショナー・トリートメント
第 37～38 回	スカルプトリートメント
第 39～40 回	ヘッドスパ
第 41～42 回	美容とデザイン
第 43～44 回	ヘアカッティングとは
第 45～46 回	シザーズとレザーの扱い方
第 47～48 回	美容刃物
第 49～50 回	ヘアカッティングの正しい姿勢
第 51～52 回	ブロッキング
第 53～54 回	ヘアカッティングの基礎理論
第 55～56 回	ベーシックなカット技法
第 57～58 回	シザーズによるカット技法
第 59～60 回	レザーによるカット技法

授業計画・内容	
第 61～62 回	パーマネントウェーブの歴史と現在
第 63～64 回	パーマネントウェーブの理論
第 65～66 回	パーマ剤の分類
第 67～68 回	パーマ剤に関する注意事項
第 69～70 回	パーマネントウェーブ技術
第 71～72 回	ワインディングのバリエーション
第 73～74 回	縮毛矯正（高温整髪用アイロン使用）
第 75～76 回	ヘアセッティングとは
第 77～78 回	ヘアパーティング
第 79～80 回	ヘアシェーピング
第 81～82 回	ヘアカーリング
第 83～84 回	ヘアウエービング
第 85～86 回	ローラーカーリング
第 87～88 回	ブロードライ
第 89～90 回	アイロンセッティング
第 91～92 回	バックコーミング
第 93～94 回	アップスタイル
第 95～96 回	ウィッグとヘアピース
第 97～98 回	ヘアカラーリング概論
第 99～100 回	ヘアカラーの種類
第101～102回	ヘアカラーのタイプ別特徴
第103～104回	染毛のメカニズム
第105～106回	色の基本
第107～108回	毛髪のレベルとアンダートーン
第109～110回	パッチテスト（皮膚貼布試験）
第111～112回	染毛剤使用時の注意事項
第113～114回	ヘアカラーリングの道具
第115～116回	酸化染毛剤（アルカリ性タイプカラー）の技術手順
第117～118回	酸性染毛料の技術手順
第119～120回	ヘアブリーチ（脱色）

科 目 名	香粧品化学	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 2）
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため、香粧品の正確な科学的知識・取り扱い方法を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	人体に有害に働かないための正しい使用方法、安全に取り扱うために必要な知識を身に付ける。
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	香粧品概論
第 2 回	香粧品の社会的意義
第 3 回	香粧品の品質と必要条件
第 4 回	香粧品の定義
第 5 回	香粧品の製造販売の規制
第 6 回	香粧品の品質等の規制
第 7 回	香粧品の表示・広告の規制
第 8 回	香粧品の安定性
第 9 回	香粧品の経時変化
第 10 回	香粧品の使用上、取り扱い上の注意
第 11 回	香粧品と安全性
第 12 回	表示成分と安全性
第 13 回	香粧品によるトラブル
第 14 回	香粧品原料
第 15 回	香粧品の種類と機能
第 16 回	皮膚と水
第 17 回	頭皮や毛髪の健康な状態
第 18 回	爪の性状
第 19 回	まぶたや口唇の性状
第 20 回	香粧品のなりたち
第 21 回	水
第 22 回	エタノール（エチルアルコール）
第 23 回	油脂
第 24 回	ロウ類
第 25 回	炭化水素
第 26 回	その他の油性原料
第 27 回	油性原料の機能
第 28 回	界面活性剤の基本的性質
第 29 回	界面活性剤の種類
第 30 回	界面活性剤の香粧品への応用

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容英会話	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	講義・演習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務におけるコミュニケーションツールとして実践的なサロン英語を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	国際的な美容師を目指し、幅広い英語表現を会話を通して学び、実践的な英語を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	自分について話そう
第 2 回	自分について話そう／発展 好き・嫌い
第 3 回	あいさつ
第 4 回	あいさつ／発展 英語の時制
第 5 回	電話での接客
第 6 回	電話での接客／発展 電話の英語
第 7 回	コンサルテーション
第 8 回	コンサルテーション／発展 髪質の表現
第 9 回	シャンプー＆トリートメント
第 10 回	シャンプー＆トリートメント／発展 英語の発音
第 11 回	ヘアカット
第 12 回	ヘアカット／発展 カットの技術
第 13 回	パーマ
第 14 回	パーマ／発展 現在完了形
第 15 回	ヘアカラー
第 16 回	ヘアカラー／発展 色彩の表現
第 17 回	仕上げ
第 18 回	仕上げ／発展 長さや温度
第 19 回	お会計
第 20 回	お会計／発展 チップの基本
第 21 回	クレーム対応
第 22 回	クレーム対応／発展 混乱を避ける
第 23 回	海外研修
第 24 回	海外研修／発展 街での英語
第 25 回	サロンの場面から／メイクアップ
第 26 回	サロンの場面から／ネイルケア
第 27 回	サロンの場面から／シェービングと衛生
第 28 回	サロンの場面から／和装着付と写真撮影
第 29 回	美容師のための和英表現／サロン
第 30 回	美容師のための和英表現／サロンワーク

科 目 名	美容実習（アップ I）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	長さのある毛髪を、頭頂部の方へまとめあげるアップスタイルの基礎技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	三つ編み（表、裏） 四つ編み
第 2 回	三つ編み（表、裏） 四つ編みの復習 平ゴムの止め方 ピンうち 基本と隠しピン
第 3 回	コテの基本の持ち方使い方 編みコテ巻きのはぐし ロープ編みハーフスタイル
第 4 回	三つ編み（表、裏） 四つ編みの復習 編み込み 編みはぐし方
第 5 回	三つ編み（表、裏）、四つ編み、編み込みの復習
第 6 回	三つ編み（表、裏） 確認
第 7 回	コテ巻き（基本）復習 コテ巻き（応用）波ウェーブ
第 8 回	コテ巻き 波ウェーブ（復習） ツイスト巻き
第 9 回	編みの太さを変える ロープ、三つ、四つ編み（自由な発想で） フィッシュボーン
第 10 回	ロープ編み込み ロープ編みのピンうち 編みはぐし方
第 11 回	フィッシュボーン（復習） フィッシュボーンとロープ編みを使ったスタイル
第 12 回	フィッシュボーンとロープ編みを使ったスタイル 確認
第 13 回	基礎総合技術を活かしたスタイルデザイン（個別テーマ）
第 14 回	基礎総合技術を活かしたスタイル創作
第 15 回	基礎技術確認

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（エステⅠ）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計1）
授業方法	講義・実習	授業時期	後期	実務経験	4年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美しく健康な皮膚を維持する生理機能を整えるためマニピュレーションなどの技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	エステティック概論
第 2 回	ワゴンセッティング、ベッドメイキング
第 3 回	ポイントクレンジング、ハンドクレンジング、ふき取り
第 4 回	相モデル実習
第 5 回	ポイントクレンジング～ハンドクレンジング～ふき取り
第 6 回	皮膚の生理と構造
第 7 回	相モデル実習
第 8 回	フェイシャルマッサージ
第 9 回	皮膚の生理と構造
第 10 回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック
第 11 回	皮膚の生理と構造、カウンセリング、スキンチェック
第 12 回	機器の取り扱い：スチーマー、ブラシクレンジング、吸引
第 13 回	マッサージ理論、衛生と消毒
第 14 回	検定対策
第 15 回	復習・確認

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（オールウェーブ）	課 目	必修課目	単 位 数	2（卒業までに計 7）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形づくる技術であるオリジナルセットの基本を中心に身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	オールウェーブ概論を説明 美容技術理論教科書を参照し理解を深める
第 2 回	指定のウィッグをウェーブ専用カットさせる。フロント 20 センチ、トップ 20 センチ、サイド 15 センチ、ネープ 15 センチにカットさせる。（自分でカットすることが深い理解につながる）
第 3 回	指定の長さにカットされたウィッグにステム 0 度で根元に角度をつけないで毛先にパーマをあてる 1 液放置タイム 20 分以上 中間プレーリンス後 2 剤 6 分×2 回塗布し、ロットアウト後頭髪を乾燥さる。
第 4 回	コームの使い方、持ち方を指導 ウィッグにセットローションの塗布の仕方を指導 コームを使用して左右に毛髪を動かす練習をさせ、コーム回転、コーム並行移動を指導
第 5 回	コームを使用して左右に毛髪を動かす練習をさせ、コーム回転、コーム並行移動を指導 指の押さえ方、腕の角度を指導しながら、反復練習
第 6 回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
第 7 回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
第 8 回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。
第 9 回	ウェーブの幅、リッジの作り方などの反復練習をさせ、バランスのとり方を学習させる。 7 段構成の練習をさせ、全体の構成を理解させる。
第 10 回	ノーパート 7 段構成を（20 分～30 分）位で完成するスピードをつける。 リッチ、面の構成指導
第 11 回	ノーパート 7 段構成を（20 分～30 分）位いで完成するスピードをつける。 リッチ、面の構成指導
第 12 回	フロントに、スカルプチュアカール 5 個の作り方の指導 配置、バランス、ピニング リッチ、面の構成指導
第 13 回	フロントに、スカルプチュアカール 5 個の作り方の指導 配置、バランス、ピニング 2 段目のリッチサイドの、4 段処理を（耳上部の処理の説明）
第 14 回	3 段目のスカルプチュアカール 5 個の （構成、位置、バランス、ピニング） リッチ、面の構成指導
第 15 回	4 段目右リフトカールの （構成、スライス、位置取り、バランス、ピニング） リッチ、面の構成指導

授業計画・内容	
第 16 回	5 段目左リフトカールの （構成、スライス、位置取り、バランス、ピニング） リッチ、面の構成指導
第 17 回	6 段目名ボールカールの （構成、スライス、位置取り、バランス、ピニング） クロスピニング） リッチ、面の構成指導
第 18 回	7 段目左カウンタークロックワイズワインドカール （構成、スライス、位置取り、バランス、ピニング） リッチ、面の構成指導
第 19 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 5 分× 3 回 左右のサイドの処理、センターのピンカールのバランスのとり方の確認
第 20 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 5 分× 3 回 左右のサイドの処理、センターのピンカールのバランスのとり方の確認
第 21 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 0 分× 3 回 左右のサイドの処理、センターのピンカールのバランスのとり方の確認 （ピニングの仕方）
第 22 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 0 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 23 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 0 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 24 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 3 0 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 25 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 26 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 27 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分× 3 回 面、リッチ、構成、ピニングの確認
第 28 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分 面、リッチ、構成、ピニングの確認 （自己採点で作品の評価練習）
第 29 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分 面、リッチ、構成、ピニングの確認 （自己採点で作品の評価練習）
第 30 回	7 段構成を練習させる。タイム目標 2 5 分 6 0 点以上の完成度を目指し確認試験 （自己採点で作品の評価練習）

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（カット）	課 目	必修課目	単 位 数	2（卒業までに計 7）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルをつくる上で重要なカッティング基礎技術（毛髪の長さ・疎密調節）を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	ヘアカット概論 美容理論教科書を使用し、基礎知識内容の指導 シザーズワーク、コームワークの練習の強化
第 2 回	シザーズの持ち方、コームの持ち方、刃物の扱いの指導 心得 注意事項の確認 シザーズワーク、コームワークの練習の強化
第 3 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) ガイド作成に関しての、パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 4 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 5 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 6 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 7 回	切り終えたカットウィッグをしようして、ブローをしてチェックカット ラインを修正させる。
第 8 回	前下がりボブ ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ワンレングスとの違いを理解させながら指導
第 9 回	前下がりボブ ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ワンレングスとの違いを理解させながら指導
第 10 回	マッシュルームカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ラインを作る際の注意事項の指導
第 11 回	マッシュルームカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 ラインを作る際の注意事項の指導
第 12 回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 13 回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 14 回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方
第 15 回	グラデーションカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 45度の角度の作り方、縦スライスへの移行の仕方

授業計画・内容	
第 16 回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90度の確認
第 17 回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90度の確認
第 18 回	ショートレイヤーカット ブロッキングの仕方パネルの引き出し方、カットの進め方 オンベースのパネルの引き出し方を 90度の確認
第 19 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 20 回	ワンレングスカットにおける、ブロッキングの仕方(パネルの移行の仕方、パネルの落とし方) パネルの引き出し、角度、スライスシザーズの置き方、持ち方
第 21 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 チックカット時の手順、方法の指導
第 22 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 23 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 24 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 25 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 26 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 27 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 28 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 29 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導
第 30 回	レイヤーカット ブロッキング 作業手順 展開図の理解 ステムの方向の確認 サイドチックカット バックサイドチェック時の手順、左右の長さの確認方法の指導

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（サロン実習Ⅰ）	課 目	必修課目	単 位 数	2（卒業までに計 2）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美容師として重要なシャンプーイング・ヘアカラーリングなどの基本技術と接客術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画		内容
第 1 回	オリエンテーション	(1) 授業の流れ、毎回の目標を確認し何を学ぶかを理解する。 (2) 接客業である美容師とは、どんな役割があるか考察する。 (3) サロン実習における作業姿勢などについて知る。
第 2 回	接客・接遇とは	接客業に求められるものについて知る。
第 3 回	第一印象の重要性	第一印象はなぜ大切か？を理解する。
第 4 回	言葉遣い	接客力を高めるための、敬語の使い方、接客でのクッション言葉を理解する。
第 5 回	電話応対	電話の特性と応対について理解する。
第 6 回	実践（敬語・接客用語）①	敬語・接客用語を使いこなせるようになる。 顧客の要望を聞く
第 7 回	実践（敬語・接客用語）②	敬語・接客用語を使いこなせるようになる。 顧客への提案。
第 8 回	貴女が選ばれるために （振り返りとまとめ）	全体を振り返り、接客業に必要なコミュニケーション能力について理解する。
第 9 回	美容用具	美容技術に必要な用具・道具類の名称や使用方法を知る。
第 10 回	シャンプーイング ①	シャンプーイングの目的を理解し、シャンプー剤の種類を知る。 シャンプーの基礎知識、技術を理解し実践できるようになる。
第 11 回	シャンプーイング ②	シャンプーイングの際の注意点や手法について知る。
第 12 回	シャンプーイング ③	シャンプー時のご案内でクロス掛け、ブラッシングの目的テクニックについて知る。
第 13 回	シャンプーイング ④	シャンプーを行う事前のすすぎの目的テクニックについて知る。
第 14 回	シャンプーイング ⑤	シャンプー後の濡れた毛髪の状態を理解し、タオルドライのポイントを知り、タオルターバンを行える
第 15 回	シャンプーイング ⑥	シャンプー後のマッサージをサロンで行うイメージをして相モデル力加減など技術を知る。

授業計画		内容
第 16 回	シャンプーイングの復習	シャンプーイングに関する内容の再確認をする。
第 17 回	テスト	相モデルでシャンプーイングを行い内容の理解をより深め速さや力加減など技術向上を図り、実践的なシャンプー・マッサージ技術を習得する。
第 18 回	ヘアカラーリング ①	ヘアカラーリング概論≪酸化染毛剤・酸性染毛剤≫ヘアカラーの種類について知る。
第 19 回	ヘアカラーリング ②	酸化染毛剤染毛のメカニズム、毛髪のレベルとアンダートーンについて知る。
第 20 回	ヘアカラーリング ③	酸化染毛剤の塗布テクニックについて知る。
第 21 回	パッチテストの必要性 染毛剤使用時の注意事項	パッチテストの必要性、染毛剤使用時の注意事項について知る。
第 22 回	ヘアカラーリング ④	酸性染毛剤のメカニズムについて知る。
第 23 回	ヘアカラーリング ⑤	酸性染毛剤の塗布テクニックについて知る。
第 24 回	ヘアカラーリング ⑥	ホイルワーク概論、スライス方法テクニックについて知る。
第 25 回	ヘアカラーリング ⑦	ホイルワークのデザインについて考察。
第 26 回	ヘアカラーリング ⑧	ウィッグを使用し実践的なデザインの理解をより深め速さや技術向上を図る。
第 27 回	ヘアカラーリングの復習	ヘアカラーリングに関する内容について総合的に理解を再確認をする。
第 28 回	総括 ①	今期に学んだ部分全ての確認をし、知識を定着させる。
第 29 回	総括 ②	今期に学んだ部分全ての確認をし、知識を定着させる。
第 30 回	総合テスト	1 年間学習を行った『サロン実習』について相モデルで実践的に施術を行い理解の確認。

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（ネイル I）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	実習	授業時期	前期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	JNA テクニカルシステム（ベーシック）、公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	手の手入れを行い、指先を美しく健康的に清潔にする基礎知識・技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、教材説明）
第 2 回	ネイル理論（テーブルセッティング）
第 3 回	ネイル理論（消毒、ファイリング）
第 4 回	キューティクルクリーン理論（プッシュバック、プッシュアップ）
第 5 回	キューティクルクリーン理論（ガーゼ・ニッパー）
第 6 回	キューティクルクリーン理論（ガーゼ・ニッパー）
第 7 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 8 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 9 回	キューティクルクリーン理論（トータル）
第 10 回	カラーリング、カラーオフ
第 11 回	カラーリング、カラーオフ
第 12 回	ネイルアート
第 13 回	カラーリング～ネイルアート
第 14 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 15 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（メイクⅠ）	課 目	必修課目	単 位 数	2（卒業までに計 2）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	目的に合った顔づくりを目指し、顔の構造・部位に応じた基礎的な知識・技術を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	メイク概論
第 2 回	道具の説明
第 3 回	セッティング
第 4 回	衛生、接客
第 5 回	第一印象と立ち居振る舞い
第 6 回	スキンケア&ベース
第 7 回	スキンケア&ベース
第 8 回	オイル洗顔
第 9 回	眉カット&アイブロウ
第 10 回	確認（スキンケア～アイメイク）
第 11 回	アイライン
第 12 回	復習（スキンケア～アイライン）
第 13 回	アイメイク（ハード）
第 14 回	マスカラ
第 15 回	チーク

授業計画・内容	
第 16 回	リップ
第 17 回	ハロウィンメイク
第 18 回	ハロウィンメイク
第 19 回	ハロウィンメイク
第 20 回	スキンケア～リップまでの仕上りの向上
第 21 回	タイムアップ
第 22 回	スキンケア～リップまでの仕上りの向上
第 23 回	タイムアップ
第 24 回	スキンケア～リップまでの仕上りの向上
第 25 回	タイムアップ
第 26 回	スキンケア～リップまでの仕上りの向上
第 27 回	確認（スキンケア～リップ）
第 28 回	スキンケア～リップまでの仕上りの向上
第 29 回	復習（スキンケア～リップ）
第 30 回	確認（スキンケア～リップ）

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習 (ワインディング)	課 目	必修課目	単 位 数	4 (卒業までに計 9)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ヘアスタイルを形成保持する上で欠くことのできないパーマネントウェーブの技法を身につける
成績評価	単位認定 (進級) 試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	ワイディング概論 美容技術理論の教科書を参照しながらブロッキングの仕方 ラバーの止め方の流れを確認し、動作をおぼえさせる。
第 2 回	ウィッグを使用して、ブロッキングを練習させながら、コームを使用して頭毛を 10 ブロック分けることができるように反復練習
第 3 回	ウィッグを使用して、ブロッキングを練習させながら、コームを使用して頭毛を 10 ブロック分けることができるように反復練習
第 4 回	フロントブロックを 12 ミリのロットで巻く練習 (上巻き) スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 5 回	フロント、クラウンを 12 ミリのロットで巻く練習(上巻き) スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 6 回	フロント、クラウン、トップを 12 ミリのロットで巻く練習(上巻き) スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 7 回	ロント、クラウン、トップを 12 ミリのロットで巻く練習(上巻き)バック(下巻き)の練習 スライス、コーミング、テンションを覚えさせて反復練習させる。
第 8 回	センターをオールパーバスの規定で巻く(20 分) ※下巻きのスピードアップ 1 本(20 秒～15 秒)
第 9 回	センターをオールパーバスの規定で巻く(20 分) ※下巻きのスピードアップ 1 本(20 秒～15 秒)
第 10 回	センターをオールパーバスの規定で巻く(15 分) ※下巻きのスピードアップ 1 本(20 秒～15 秒)
第 11 回	センターをオールパーバスの規定で巻く(15 分) ※下巻きのスピードアップ 1 本(20 秒～15 秒)
第 12 回	センター、バックサイド、サイド (バックサイドのスライスのとり方) センターバックサイドのつながぎの
第 13 回	センター、バックサイド、サイド センターバックサイドのつながぎの
第 14 回	センター、バックサイド、サイド センターバックサイドのつながぎの
第 15 回	センター、バックサイド、サイド センターバックサイドのつながぎの

授業計画・内容	
第 16 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（40分）タイム計測
第 17 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（40分）タイム計測
第 18 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（35分）タイム計測
第 19 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（35分）タイム計測
第 20 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（35分）タイム計測
第 21 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（35分）タイム計測
第 22 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 23 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 24 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 25 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 26 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（30分）タイム計測
第 27 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（25分）タイム計測
第 28 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（25分）タイム計測
第 29 回	全頭バランス、スライスのとり方の確認（25分）タイム計測
第 30 回	全頭確認試験巻バランス、スライスのとり方の確認（25分） 評価目標 60点以上

授業計画・内容	
第 31 回	新課題レクチャー ブロッキング スライス展開 オンベース、2分の1 OFF ベース
第 32 回	新課題レクチャー ブロッキング スライス展開 オンベース、2分の1 OFF ベース
第 33 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導
第 34 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導
第 35 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導
第 36 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導
第 37 回	センターパート フロントスライス バックサイドスライス サイドスライス スライスのとり方、配列 ラウンドのつけ方を指導
第 38 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 4 0 分
第 39 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 4 0 分
第 40 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 4 0 分
第 41 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 4 0 分
第 42 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 3 5 分
第 43 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 3 5 分
第 44 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 3 5 分
第 45 回	全頭 バランス 配列 ラウンドの確認 タイム計測 3 5 分

授業計画・内容					
第 46 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 3 5 分 × 2 回
第 47 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 3 5 分 × 2 回
第 48 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 3 5 分 × 2 回
第 49 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 3 5 分 × 2 回
第 50 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	ラバーの止め方 ステムの方向 タイム計測 3 0 分 × 2 回
第 51 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 3 0 分 × 2 回
第 52 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確	評価 タイム計測 2 5 分 × 2 回
第 53 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 5 分 × 2 回
第 54 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 5 分 × 2 回
第 55 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 5 分 × 2 回
第 56 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 0 分 × 2 回
第 57 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 0 分 × 2 回
第 58 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 0 分 × 2 回
第 59 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	評価 タイム計測 2 0 分 × 2 回
第 60 回	全頭	バランス	配列	ラウンドの確認	確認試験 タイム計測 2 0 分

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容実習（和装Ⅰ）	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術・衛生管理の方法・総合的な技術の基礎を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	日本の伝統的な文化・風俗を学びながら、新日本髪・着付けの基礎技術を身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、着物の名称、着物のたたみ方、ひもの片付け方）
第 2 回	浴衣（一人着付け①）※男女別課題
第 3 回	浴衣（一人着付け②）※男女別課題
第 4 回	浴衣（二人組ボディ着付け①）※男女同一課題
第 5 回	浴衣（二人組ボディ着付け②）※男女同一課題
第 6 回	浴衣着付け（復習・確認）
第 7 回	新日本髪①（ブロッキング）
第 8 回	新日本髪②（逆毛の立て方）
第 9 回	新日本髪③（ゴムの括り方・ピンの打ち方）
第 10 回	新日本髪④（根のつくり方）
第 11 回	新日本髪⑤（左右の鬢のつくり方）
第 12 回	新日本髪⑥（前のつくり方）
第 13 回	新日本髪⑦（全頭完成）
第 14 回	新日本髪⑧（バランス・艶の出し方・復習）
第 15 回	新日本髪⑨（復習・確認）

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術 (キャリアアップ)	課 目	選択課目	単 位 数	2 (卒業までに計 3)
授業方法	実習	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業界で活躍するために必要な技術を高める目標・計画力・実行力を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	キャリアデザインの目標上の美容実習面の目標への計画力、行動力や課題改善力を身につける
成績評価	出席・課題完成度 80%以上

授業計画・内容		
第 1 回	学内競技の設定 (美容実習・総合美容技術より①課題・種目、②参加競技などの目標設定)	
第 2 回	参加課題・競技既定、対競技特別トレーニングの参加確認	
第 3 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 4 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 5 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 6 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 7 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 8 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 9 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 10 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 11 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 12 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 13 回	学内競技準備	
第 14 回	学内競技参加、競技・展示課題鑑賞	
第 15 回	学内競技参加、競技・展示課題鑑賞	
第 16 回	学内競技の設定 (美容実習・総合美容技術より①課題・種目、②参加競技などの目標設定)	
第 17 回	参加課題・競技既定、対競技特別トレーニングの参加確認	
第 18 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 19 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 20 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 21 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 22 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 23 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 24 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 25 回	合同トレーニング (各自出場種目)	競技・展示課題作成
第 26 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 27 回	対競技特別トレーニング、課題改善	合同トレーニング (各自出場種目)
第 28 回	学内競技準備	
第 29 回	学内競技参加、競技・展示課題鑑賞	
第 30 回	学内競技参加、競技・展示課題鑑賞	

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術（ネイルⅡ）	課 目	選択課目	単 位 数	1（卒業までに計 1）
授業方法	実習	授業時期	後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	JNA テクニカルシステム（ベーシック）、公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	ネイルの基礎知識・技術を基に、技能検定 3 級の実力やネイルアート表現力などを身につける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 2 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 3 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 4 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 5 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 6 回	JNEC ネイリスト技能検定 3 級対策
第 7 回	アートチップ製作
第 8 回	アートチップ製作
第 9 回	アートチップ製作
第 10 回	アートチップ製作
第 11 回	アートチップ製作
第 12 回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第 13 回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第 14 回	ネイルサロンワーク ロールプレイング
第 15 回	ネイルサロンワーク ロールプレイング

平成 31 年度 総合美容コース 第 1 学年 シラバス

科 目 名	美容総合技術(メイクⅡ)	課 目	選択課目	単 位 数	1 (卒業までに計 2)
授業方法	実習	授業時期	後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うための技術を基に、さらに高度な総合的技術・知識を身に付ける				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	メイクの基礎的な技術を発展させ、陰影を再現した多様な顔の印象を表現する技術を身に付ける
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	概要解説 テキスト確認
第 2 回	スキンケア～アイブロウメイク 肌理論
第 3 回	ベースメイク コントロールカラー理論 肌理論
第 4 回	ベースメイク コントロールカラー～コンシーラー 肌理論
第 5 回	ベースメイク～ポイントメイク（ハイライト・ノーズシャドー） 紫外線理論
第 6 回	シェーディング・骨格修正 理論（メイクアップの用具～カウンセリング）
第 7 回	アイラッシュメイク 手順と効果 理論（スキンケア～ベースメイクアップ）
第 8 回	アイシャドー① スチール撮影メイクテクニック 理論（チーク・ハイライト・シャドー）
第 9 回	アイシャドー② 舞台・ショーメイクテクニック 理論（ポイントメイクアップ）
第 10 回	チーク・リップメイク 理論（男性メイクアップ）
第 11 回	トータルメイクアップ 理論（メイクアップにおける色彩学）
第 12 回	実技検定内容タイム計測①
第 13 回	実技検定内容タイム計測②
第 14 回	検定試験対策（実技） 手順工程・衛生面確認
第 15 回	検定試験対策（学科） 対策模擬プリント

科 目 名	文化論	課 目	必修課目	単 位 数	1（卒業までに計 2）
授業方法	講義・実習	授業時期	前期・後期	実務経験	有しない教員
経験活用					
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てる。
成績評価	課題評価 60 点以上

授業計画・内容	
第 1～2 回	鉛筆の削り方、顔のプロポーション
第 3～4 回	顔の部分練習 基礎編
第 5～6 回	顔の描き方 正面向き
第 7～8 回	顔の描き方 斜め向き
第 9～10 回	顔の描き方 横向き
第 11～12 回	角度の変化による顔型
第 13～14 回	ヘアの描き方 毛先の表現、線の長さによる違い
第 15～16 回	ヘアの描き方 ウェーブヘア
第 17～18 回	ヘアの描き方 ぼかして消しゴムで描く
第 19～20 回	ヘアの描き方 線の強弱
第 21～22 回	いろいろな描き方
第 23～24 回	顔の部分練習 応用編
第 25～26 回	配置によるイメージの違い
第 27～28 回	ヘアスタイルによるイメージの違い
第 29～30 回	同じ顔でイメージを変える

科 目 名	保健	課 目	必修課目	単 位 数	2（卒業までに計 3）
授業方法	講義	授業時期	前期・後期	実務経験	4 年以上有する教員
経験活用	美容業務を安全・効果的に行うため、皮膚・毛髪などの正確な科学的知識を身に付けさせる				
教 科 書	公益法人日本理容美容教育センター発行教材				

到達目標	頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能、皮膚やその付属器官毛髪の詳細を理解できる
成績評価	単位認定（進級）試験 60 点以上

授業計画・内容	
第 1 回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学
第 2 回	骨角器系
第 3 回	筋系
第 4 回	神経系
第 5 回	感覚器系
第 6 回	血液・循環器系
第 7 回	呼吸器系
第 8 回	消化器系
第 9 回	皮膚の表面・断面
第 10 回	表皮・真皮
第 11 回	皮下組織
第 12 回	皮膚の部位差
第 13 回	毛
第 14 回	脂腺（皮脂腺）
第 15 回	汗腺
第 16 回	爪
第 17 回	皮膚の血管
第 18 回	皮膚のリンパ管
第 19 回	皮膚の神経
第 20 回	対外保護作用
第 21 回	体温調整作用
第 22 回	知覚作用と皮膚反射
第 23 回	分泌排泄作用
第 24 回	呼吸作用
第 25 回	吸収作用
第 26 回	貯蔵作用
第 27 回	免疫・解毒・排泄作用
第 28 回	再生作用
第 29 回	毛のはたらき
第 30 回	爪のはたらき

授業計画・内容	
第 31 回	皮膚と全身状態
第 32 回	皮膚と精神
第 33 回	皮膚と栄養
第 34 回	皮膚とし好品
第 35 回	皮膚と体内病変
第 36 回	皮膚の水分と脂の状態
第 37 回	皮膚・付属器官とホルモン
第 38 回	皮膚の保護と手入れ
第 39 回	毛の保護と手入れ
第 40 回	爪の保護と手入れ
第 41 回	子どものおしゃれによる皮膚トラブル
第 42 回	皮膚の異常とその種類
第 43 回	皮膚疾患の原因
第 44 回	皮膚疾患の治療法
第 45 回	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹
第 46 回	口唇の疾患
第 47 回	温熱・寒冷による皮膚障害
第 48 回	角化異常による皮膚疾患
第 49 回	色素異常による皮膚疾患
第 50 回	血管腫（アカアザ）
第 51 回	脂腺母斑
第 52 回	下肢静脈瘤
第 53 回	分泌異常による皮膚疾患
第 54 回	化膿菌による皮膚疾患
第 55 回	ウイルスによる皮膚疾患
第 56 回	真菌による皮膚疾患
第 57 回	衛生害虫による皮膚疾患
第 58 回	感染症の皮膚疾患の予防
第 59 回	毛と爪の疾患
第 60 回	皮膚の腫瘍